

## 黄砂の発生と被害

### [右写真解説]

黄砂の影響は、韓国さらに中国と、発生源に近づけば、さらに大きくなる。中国では、北京など大都市の街中が黄色に染まり（右写真：天安門広場のようす）、家の窓のすき間などからも砂が入ってくる、でかけるときは頭からビニル袋をかぶらなければならない、といった具合。これほどまでになると呼吸器など健康への影響も大いに心配しなければならない。また、黄砂によって村が埋もれてしまう、などといったことも起こっている（左写真：北京から約150km郊外の砂に埋もれた家）。

（写真提供：共同通信社、PANA 通信社）

黄砂の源は、中国の内モンゴル自治区からモンゴルにかけて広がるゴビ砂漠や、黄河中流域の黄土高原、さらに中国西部のタクラマカン砂漠。冬の間は、雪や氷に閉ざされるが、春になって雪解けが進むと、地面の砂が風に舞い上がりやすくなる。さらに、春は大陸で低気圧が発生する。強い風が、砂を大空へ舞い上げ、それが上空の風に乗って、中国から朝鮮半島、さらに日本へと飛来するというわけだ。日本の中では、大陸に近い西日本や日本海側の地方でとくに3月から4月に飛来することが多い。一方、黄砂は空の比較的低いところを飛んでくるため、日本アルプスに遮られ、関東地方に飛来することは比較的少ない。しかし、大規模なものは、日本列島をはるかに越え、アメリカ大陸にまで到達することが確認されている。

黄砂がとくに問題になりはじめたのは2000年ごろ。日本への飛来回数が増加し、2002年には、黄砂の飛来回数、規模ともにピークに達した。日本の中でも黄砂の影響がとくに大きい九州では、空が黄色く染まり、極端に見通しが悪くなった。洗濯物を干せない、自動車が汚れるといった影響はもちろん、視程の悪化のために飛行機が欠航までするといった事態になった。この年の4月、福岡市では1か月のうち、14日間も黄砂が観測されている。

黄砂が増加した原因として、いくつかのことが考えられている。一つの大きな原因は砂漠化の進行。中国の工業化や人口増加の影響で、森林の伐採や大量の家畜の放牧により、地面の乾燥、砂漠化を招いた。もう一つの大きな原因として、異常気象による乾燥化があげられる。たとえば、地球温暖化により冬の雪の量が減れば、地面を覆う雪がなくなり、冬でも黄砂が発生

し、また雨が少なければ、大地の乾燥が進み、砂が舞い上がりやすくなる。日本への黄砂の飛来が多いのも、やはり大陸の奥地でこういった気象条件になった年だ。何千キロも離れた場所での雪や雨の量が、日本への黄砂の飛来量に影響するわけだから、気象に国境がないことを実感させられる。

このような黄砂の深刻化に対して、各国も対策を打ちはじめた。日本、中国、韓国の3か国で、黄砂の発生、飛来の研究を行い、黄砂の飛来予測なども盛んに行われている。気象庁も近年、黄砂の飛来予測をインターネット上などで公開、生活の中で役立てることが可能になった。また、黄砂の発生源をかかえる中国では、森林保護などの対策が進みつつあると聞く。そのためか、黄砂のピークとなった2002年を過ぎてからは、日本への黄砂の飛来回数や規模は、いくぶん落ち着いてきている。このままいくのか、注目されるところだ。

ところで、最近、意外なところで、黄砂につながる話題があった。日本の割り箸が値上がりしているというのだ。1年間に日本で消費される割り箸の数は248億膳、1人当たり約200膳にもなる。以前は、割り箸はおもに間伐材などを用いて日本で作られていたが、現在、割り箸のほとんどは中国からの輸入品だ。中国では白樺などの木を、割り箸を作るためだけに次々と切り倒している。ところが、中国で森林保護意識が高まり、日本への割り箸輸出がしだいにむずかしくなっている。それが割り箸の値上がりにつながっているという。

春の到来を私たちに知らせてくれていた黄砂だが、今は、地球環境の危機を訴えるために、はるか大陸の奥地から日本へと飛来しているのかもしれない。

（財）日本気象協会九州支社 松井 渉